

3号発刊によせて

今年の3月で本研究科は創設6年目を迎えました。創設後、社会人（夜間）課程を加え入学定員が増え、千葉県八千代市から東京都北区王子へ移転してから3年が経過しました。本研究科は前研究科長の高野清純先生を中心にして基礎固めをして、その後教育・研究において順調に発展してきました。本年度はさらに次の2つの点で発展しました。

そのひとつは、平成15年4月から臨床心理士認定協会の受験資格指定校として認定されたことです。これには1年の遡及措置が同時に認められましたので、本年度入学者の課程修了時から指定校並みの扱いがなされます。

もうひとつは、平成15年度から本研究科に大学院博士後期課程の設置が文部科学省から認可されたことです。臨床心理学やカウンセリングに関する高度職業人の指導者や研究者を養成することを目的に申請していたものが認められ、平成15年4月から入学者を迎えることになりました。

このような状況から本研究科は、平成15年4月には指導教員13名、在席者数62名（博士後期課程を含む、修了生65名となります。それに対応させようと王子校舎も改築され、教室・ゼミ室・研究室の整備、コンピューター室の充実などが進みました。まだ十分とはいえませんが、教育・研究環境はかなり改善されました。

ハードウェア（設備）面の充実の次はソフトウェア（教育・研究）面の発展を目指さなければなりません。来年度以降の課題として残されたといえましょう。

本年度は併設の心理教育相談センターの相談件数は順調に伸びており、活発な相談活動が行なわれました。大学院の公開講座も盛況のうちにその成果を挙げています。それに加え、夏には小学生を対象に本学園の宿泊施設「戸隠ロッジ」で10日間のサマースクールを実施しました。さらに、臨床実習を充実させるため、病院・クリニック、各種施設などへ教員とともに出かけました。このようないろいろな機会の中で研究科の教員も院生も多くの実践活動を通して、臨床の能力と技能を伸ばし、研究活動を続けています。

この紀要はそれらの成果の一端を公開し、読者のご批判・ご叱正をいただき、本研究科における今後の教育・研究の発展に資したいと願っています。みなさまがたのご指導をお願いいたします。

平成15年2月

大学院研究科長 杉原一昭